

記念講演会

演題：「日本と国連との 60 年」

講師：植木俊哉 附属図書館長

(東北大学国際展開担当理事・法学研究科教授)

■ 館長からのメッセージ ■



国連（国際連合; the United Nations）は、第 2 次世界大戦で 1945 年 5 月にドイツが降伏し日本だけが「連合国」を相手に戦争を続けていた 1945 年 6 月に米国のサンフランシスコで採択・署名された国連憲章に基づいて、同憲章が発効した 1945 年 10 月に正式に発足しました。ヨーロッパに未曾有の惨禍をもたらした第 1 次世界大戦の痛切な反省を踏まえ、戦争の防止と国際紛争の平和的解決を目的として創設された人類史上初の普遍的国際組織である国際連盟（the League of Nations）と 1928 年に採択され 29 年に発効した不戦条約（戦争の放棄に関する条約）は、第 2 次世界大戦の発生を防ぐことができず、事実上大きな失敗に終わりました。

国連は、このような国際連盟と不戦条約に関する厳しい反省の上に、1945 年に新たに創設された世界的規模の国際組織です。昨年創設 70 周年を迎えた国連は、70 年以上にわたり国際社会の平和と正義、公正を維持・促進するための中心的組織として重要な役割を果たしてきました。

また、国連憲章が採択された当時、「連合国」(the United Nations)を相手に戦争を行っていた唯一の「枢軸国」であった日本は、その後 1945 年 8 月のポツダム宣言受諾、1951 年のサンフランシスコ平和条約の締結、翌 52 年の同条約の発効により国際社会に主権国家として復帰しましたが、日本が国連に加盟を認められたのは 1956 年 12 月でした。それからちょうど 60 年、日本は重要な国連加盟国の 1 つとして、国際の平和と安全の維持、さらに経済社会分野や人権人道分野での国際協力の促進等、さまざまな貢献を国連の場で、あるいは国連を通じて、国際社会において行ってきました。

本講演では、特に東北大学や東北地方と国連とのつながりに光を当てながら、日本と国連の 60 年の歩みを振り返ります。

日時：2016 年 12 月 13 日(火)15:30-17:00

会場：東北大学附属図書館本館 1 階多目的室

(仙台市青葉区川内 27-1 仙台市地下鉄東西線川内駅より徒歩 7 分)

申込
不要

東北大学附属図書館は、1965 年 7 月、東北地方で初めて国連寄託図書館 (United Nations Depository Library) に指定されました。